

# 第7回生駒市総合教育会議 会議録

1 日 時 平成28年4月4日(月) 午前9時40分～午前10時57分

2 場 所 生駒市役所 大会議室

3 協議事項

- (1) 教育大綱の策定について
- (2) その他

4 市側出席者

市 長 小 紫 雅 史 副市長 山 本 昇

5 教育委員会側出席者

教育長 中 田 好 昭  
委員(教育長職務代理者) 山 本 吉 延 委員 飯 島 敏 文  
委員 上 田 信 行 委員 寺 田 詩 子  
委員 神 澤 創 委員 浦 林 直 子  
委員 坪 井 美 佐 委員 レイノルズあい

6 関係職員及び事務局職員出席者

教育振興部長	峯 島 妙	生涯学習部長	奥 畑 行 宏
教育振興部次長	真 銅 宏	教育総務課長	辻 中 伸 弘
教育指導課長	吉 川 祐 一	学校給食センター所長	奥 田 茂
こども課長	前 川 好 啓	こども課指導主事	松 本 陽 子
こども課指導主事	上 田 直 美	子育て支援総合センター所長	辻 本 多佳子
生涯学習課長	西 野 敦	図書館長	向 田 真理子
スポーツ振興課長	吉 岡 秀 高	教育総務課課長補佐	藤 本 清 夫
教育指導課課長補佐	城 野 聖 一	学校給食センター副所長	松 本 芳 樹
こども課課長補佐	後 藤 治 彦	生涯学習課課長補佐	清 水 紀 子
図書館南分館長	錦 好 見	図書館北分館長	中 谷 知 子
生駒駅前図書室長	平 澤 佐千代	スポーツ振興課課長補佐	西 政 仁
図書館図書係長	脇 本 敦 子	教育総務課(書記)	松 井 恵

7 傍聴者 6名

○開会宣告

○協議事項

(1) 教育大綱の策定について

I 教育大綱の基本的な考え方

山本委員：原案の「大綱の期間は策定の日から4年間とします」と言い切る表現は4年間で大綱が終了するという印象を受ける。「本大綱は策定の日から4年間をもって改訂の区切りとしますが、随時見直しの機会を確保します。」としてはどうか。

小紫市長：ご意見を基にして、4年後が見直しの時期であることがはっきりわかる表現にしたい。また、事前にいただいたご意見のように、学校教育の目標の根拠法令も明記したい。

また、坪井委員からご意見をいただいた標記の揺れについても、ご意見を基にして「市民および関係者」、「具体的な事業・施策（アクションプラン）」などに統一する。

II 生駒市の教育に関する基本的な方向性

II-1 基本理念

小紫市長：基本理念については3つの案を提示したが、基本的な考えとしては、「遊び」という部分を教育の方向性の中に取り入れたいという思いがある。これまでの会議でご意見をいただいたように、「遊び」と「学び」と「生きる」という要素が大切であることを表現した基本理念の案である。

飯島委員：基本的には原案で示されている内容で良いと思うが、表現の仕方によって印象が変わる。基本的な方向性確認した上で、文言の調整をお願いしたい。

私は、「遊び」、「学び」、「生きる」という3つの言葉が基本理念に入ると良いと思う。市内の小中学校で子どもたちに接する中で、遊びと学びが別に捉えられているという印象を受けた。遊びが学ぶことの邪魔になっているという思い込みがあることは好ましくない。楽しく遊ぶことが深く学ぶことにつながるということを子どもたちに伝えるには、保護者・地域・社会が協力して取り組むことが必要である。それを大綱で伝えるために、「遊び」と「学び」という言葉を入れたい。学んだことが生きる力につながることを今の社会にとって非常に重要である。学びを生活や生きることにつなげられないという現実があるならばそれを解消して、学ぶことを充実して生きることにつなげたい。そのような認識を共有して、基本理念の文言の検討をしたい。

上田委員：飯島委員のご意見に賛成で、「遊ぶ」、「学ぶ」、「生きる」という言葉は柱

になると思う。「遊ぶ」と「学ぶ」は違う、または同じというような議論が起きることが重要である。軸さえしっかりしていれば、解釈には多様性があった方が面白い。例えば、就学前教育には「遊び」があるが、それを「生きる」という視点から考えると、具体的な面白いアクションが出てくると思う。3つの言葉を自由に組み合わせて、自由な発想で考えるのが良い。

また、「共に」という言葉は、概念としては「共に遊び、共に学び、共に生きる」のように全ての言葉に付けたいが、文言としてどこに入れれば迫力が出るか。

さらに、基本理念は「遊ぶ」、「学ぶ」のように1人称で表現し、自分が大綱を実現する主体として、一人一人が積極的に関わられるように、単なるスローガンではなく、共に考え、共に創るという大綱にしたい。

浦林委員：サブタイトルの「～戻ってきたくなる生駒を目指して～」という表現を「～誰もが活躍できる豊かな未来を目指して～」という以前レイノルズ委員が出しておられた理念にするのはどうか。「戻ってきたくなる」という表現は、以前の会議で山本委員が例に出した『村を育てる学力』という話で出てきたものであるが、最初から「戻ってきたくなる」と表現すると、教育した子どもたちが出て行き戻ってくることが前提の理念になってしまう。また、子どもたちにとっては、世界で活躍する夢と身近な市民生活を支える人、地域の中の働く大人の存在が憧れの職業であり目指す姿として、どちらもあるのが自然ではないか。教育としてどちらも大切にしたい。

レイノルズ委員：枠内の基本理念は、「遊ぶ」、「学ぶ」、「生きる」の3本を組み合わせて、あとは文言を調整するだけであると思う。

細かい部分について意見を述べると、「戻ってきたくなる」という表現については浦林委員と同じ意見である。また、戻ってきてほしいのは人口や税金収入を確保したいためではないかという裏側を詮索される可能性があるため、表現を改めるのが良いと思う。自由に世の中に羽ばたき、いつか生駒に戻りたいと思う気持ちを育成したいのは理解できる。

枠外の説明文の中で、「～が求められている」と言い切る表現から、「～機会ととらえることで人生をより楽しむことができる」という提案型の文章にする方が望ましい。また、「ますます素敵な「いこまびと」」は抽象的な印象を受けるので、何を持って「素敵」というのか具体的に示せば、生駒の特徴を出せるのではないか。例えば、人を思いやれる、自分の力を信じられる、どの場所でも活躍できる、世界に飛び出せる能力を持つなどである。

寺田委員：「遊び」は幼児教育において一番大切な部分であり、基本理念に入れるのも理解できるが、一般の方に対して「遊び」という部分はどうかとい

う抵抗も感じた。しかし、実際に遊びの中で学んでいくことは大切であるので、この大綱でいかにそれを分かっていたかかが問題である。上田委員のご意見のように、基本理念について議論してもらうのも良いが、その議論の方向性を示しておかなければ、ただのキャッチフレーズで終わってしまうことが心配である。遊びからどのように学び社会に生かすかということを示していただきたい。

山本委員：「遊び、学び、生きる」という言葉はインパクトが合って良いと思うが、「“いこまびと”」という言葉がどの程度認知されているか。ワークショップの議論の中で出てきた言葉であると思うが、市民の方にピンとくるかが心配である。

また、理念として方向性を示すために、「共に生きる“いこまびと”」の語尾を述語にすると良いのではないか。私の案では「～をはぐくみます」としたが、少し上から目線になっているように思う。飯島委員のように「共に生きよう」という表現も良い。

小紫市長：いただいたご意見を整理すると、「遊ぼう」、「学ぼう」、「生きよう」のように一人称での表現が良いということであった。

また、枠外の柱書については、レイノルズ委員のご意見のように修正する。柱書の後段では、「遊び」と「学び」と「生きること」がつながっていることや、「いこまびと」の中にどのような要素が含まれているかを説明するのが良いか。理念という性質上、説明が長くなり過ぎないように調整する。

基本理念の副題は、付けるか付けないかの議論にもなると思うが、副題を付けるとすれば「～誰もが活躍できる豊かな未来を目指して～」として良いか。

山本委員：構造としては、理念の主題が象徴的に書かれていて、それを補足するための説明的な副題があるという形が良い。

小紫市長：枠外の柱書に具体的な説明を入れるなら、副題は削除するという方法もあるか。

上田委員：主題について、山本委員の案の「はぐくみます」の部分を「楽しもう」にしてはどうか。提案にもなるし、上から目線でもない。教育大綱という固いイメージを持たれそうだが、成長に喜びを感じ、楽めるかがこれからの教育にとって大切であるので、生駒の大綱では楽しさを前提にしているということをオリジナリティとして出してはどうか。そして、その楽しむ機会を提供するのが私たちの役割であると思う。

小紫市長：「遊び、学び、」という原案に、「楽しい」という文言を入れるということか。

上田委員：山本委員の案の「はぐくみます」の代わりに「楽しもう」とすれば、どこに向かって遊び、学び、生きるかが見えてくる。

神澤委員：遊びの一番大事な本質は、役に立たなくて良い、結果を求めないということであるので、遊びを通して学ぼうとするのはあまり好きではない。「～しましょう」というスローガンだと、効率や成果を考えて、極端に言えば遊びを通じて点数を取ろうという意味になってしまうのではないか。遊びを効率的にすると、遊びの本質が損なわれてしまう。

上田委員：「楽しもう」という目標があれば、4年後に大綱の評価をする時に、「4年間で楽しめましたか？」と問いかけることができる。学ぶことを楽しめていない方に、4年間かけて学ぶ楽しさを知ってもらうことにチャレンジしたい。生駒市として、何を持って大綱の目標達成とするかという点で、どれだけ楽しめたかということが大綱に入れたい。

小紫市長：両委員のご意見のとおりであるが、言葉で表現するのが難しい。

中田教育長：モチベーションを上げるための言葉探しである。言葉としてなじみやすくイメージしやすい「わくわくどきどき」という言葉を出しても良いか。

上田委員：「共に楽しもう。学ぶこと、遊ぶこと、生きること」という理念はどうか。

神澤委員：心や身体を使ってみないと分からない部分もあるので、「体験」というキーワードが入れてはどうか。

小紫市長：上田委員のご意見のように、「遊ぶ」、「学ぶ」、「生きる」、「共に楽しむ」という要素を入れた基本理念を考えたい。体験の部分については、枠外で表現する。

では、副題は削除し、柱書の中に委員の皆様のご意見を加えて詳しく説明することで良いか。

レイノルズ委員：主題は「「遊ぶ」「学ぶ」「生きる」を共に楽しもう」とするのが良いか。それぞれの言葉を鍵括弧で強調し、特に「遊び」の大切さを伝えるために一番前に出した。

小紫市長：最後に「楽しもう」という言葉が入ることで、一人称的な意味も入っていて良い。柱書きと合わせて調整する。

上田委員：「楽しもう」という言葉の中に、わくわくどきどきという感覚も入っている。私が強調したかったのは、「いろいろなことを共に楽しもう」という「いろいろ」の代表として「遊ぶ」、「学ぶ」、「生きる」の3つがあるという点である。

小紫市長：では、これまでのご意見をもとに主題を作成し、副題は削除するものとして基本理念を調製する。

## Ⅱ－２ 基本方針

### <子育て・就学前教育>

小紫市長：基本的には事前に委員の皆様からいただいたご意見を反映するが、ここで特にご意見はあるか。

山本委員：自動詞と他動詞の問題で、基本方針1-2の「遊び」を「学び」につなげる」を「遊び」を「学び」につなぐ」にしてはどうか。  
また、基本方針は体言止めでも良いと思うが、方針の方向性が分かるように、「～の充実」という文言を追加していただきたい。

浦林委員：ひとり親家庭も多いので、その支援や配慮についての文言を追加していただきたい。

#### <学校教育>

寺田委員：先ほどの山本委員のご意見と同じく、方針の方向性がはっきりしないと、「～の養成」や「～づくり」という文言を加えていただきたい。

浦林委員：「27年度生駒市の子ども現状と教育の取組」の資料の中の学力調査の結果で、生駒市の学力はデータ的には点数が高いが約20%の子どもたちが「授業が分からない」と回答している。学力テストの点数の偏差が不明だが、良くできる厚い層が平均点を引き上げて、勉強についていけない層の問題点が見過ごされているのではないかと思うので、「義務教育における基礎的な学力、体力の地道な学びと向上を確実に積み重ねつつ、」という文言を追加し、学校現場での基礎学力・体力づくりを大切にする姿勢や底上げを後押ししたい。

#### <生涯学習>

小紫市長：基本的には事前にいただいたご意見のとおり調整し、同じ部分に複数のご意見をいただいている箇所については修正案を組み合わせて調整する。

レイノルズ委員：原案では1文が長くなりつつあるので、一部の文言を削除しすっきりさせてはどうか。

神澤委員：「障がいの有無、国籍、性別、年齢などによる差別をなくし、多様性を認め合う学びや体験の場を創る」という部分が基本方針2の内容と似ている。個人的には2回同じ内容を書いても良いと思うが、どちらかに整理しても良いか。この部分を強調したいなら残しても良いと思う。

小紫市長：ご意見を基に調整する。青少年の分野には、ニート・引きこもりという社会的問題もあるので、一旦検討させていただきたい。

### Ⅲ 大綱策定後の進行管理

飯島委員：PDCAサイクルで評価を行うとのことである。最近では、業績管理場面でPDCAサイクルはよく利用されているため、その評価の仕方に関する記述も多いが、サイクルという名前を表すような図解入りのものが多い。今回の大綱の原案も矢印で図示しているが、よくあるPDCAサイクルの説明の中に埋没してしまうのではないか。矢印を用いずに文章で表現した方が、他のページの記述との整合性も保たれると思う。

小紫市長：原案は簡潔に整理した図になっており、大綱を進行管理する上で分かり

やすいと思うがどうか。

浦林委員：円形に図示すると分かりやすいと思う。

レイノルズ委員：PDCAサイクルはすでに確立されたものでもあるし、図式化で良いかと思う。

小紫市長：では、一定の図表は残し、説明を加えるのはどうか。

飯島委員：一般によくある表現より丁寧な表現をするべきであるという意味での意見であり、図示することに異論はない。

レイノルズ委員：教育大綱で「学ぶ人たちにこのようにあってほしい」という提案をするに当たり、まず大人が実行しないとイケない。書面でしか大綱を見ない人に内容を分かってもらえるかが問題である。子どもだけが遊んで学んで生きれば良いのではなく、自分自身が遊んで学んで生きてほしい。PDCAサイクルの楽しい見せ方があれば、その点がよく伝わるか。

小紫市長：大綱を策定した後、これを一人一人の市民が自分事として受け止められるかということが課題である。いかに大綱を浸透させるかという見せ方や方法を考えていく。

#### IV 教育委員会の果たす役割

山本委員：教育委員会の果たす役割については、4つ目の構成として他の項目と同列に書くべきではないのではないかと。市長と教育委員会の協働・協創で策定しているのに、あとは教育委員会に任せるという印象を受ける。代わりに、市民一人一人が自分自身の問題として教育を捉えようという内容があっても良いかと思う。市民が大綱を目にしたときに、これは教育委員会が果たす役割であると印象付けるような表現はない方がよい。また、文章中に主語の揺れを感じるので調整していただきたい。

小紫市長：この項目の趣旨は、一般的な国や自治体の計画にあるように、市の役割や市民の役割などそれぞれの役割を整理することであるが、今回の案のように、教育委員会の役割だけを明記すると違和感があるか。大綱の中身をすべて教育委員会に任せるということではないが、山本委員のご意見のような誤解を招きかねないので削除したい。しかし、これから具体的に大綱を実現していくために、委員の皆様からのご提案はいただきたい。教育委員会・学校・市民・保護者などの役割についての議論は今後出てくると思うが、実際の現場での動き方を含めて検討したい。

小紫市長：最後に、大綱案の全体を通して何か意見はないか。

神澤委員：「協創」という言葉の意味が分かりにくくイメージしにくい。内容としては素晴らしいと思うので、文言の問題か。

小紫市長：「協創」とは、単に一緒にするというのではなく、協働していかに具体的に物事に取り組み創り上げるかということである。「協創」という

言葉の意味を大綱の中で説明するか、「協働」という言葉に置き換えるか。

神澤委員：「共に創る」という文言を入れると意味が分かってくる。ここで言う「創る」とは、「新しいものを創る」ということではなく「具体化する」という意味か。

小紫市長：市民と共に、目に見えるような形まで成果として創造することを意識した言葉である。

神澤委員：「創り上げる」という文言にすると良いか。

小紫市長：「協創」という言葉を使い、その中で「具体化する」という部分を説明するか。

## (2) その他

今後のスケジュールについて、教育振興部真銅次長から説明  
(質疑) なし

## ○閉会宣告

午前10時57分閉会